

くすりと健康のはなし

## 薬包紙

第25回

一般社団法人岐阜県薬剤師会

理事 久保田正之



皆様は、イベント会場等で「献血」風景に出会ったことはありませんか？ 皆様は、「献血」に協力していただいていますか？ 私事で恐縮ですが、私は職業柄「献血」推進事業に携わっていた時期もあり既に100回の「献血」を経験しています。

大きな手術などには大量出血などに備えるために輸血用の血液製剤が用意されます。この血液製剤は、健康な方々から自発的かつ無償で提供いただく「献血」による血液から造られる医薬品です。血液は生命を維持するために欠くことのできないものですが、科学の発達した今日でも血液を人工的に造ることはできません。皆様の「献血」によって医療が支えられ、多くの患者さんが日々救われているのです。

「県内で医療上必要な血液は県内の『献血』で確保する」ことを目標に、岐阜県赤十字血液センターが主体となって血液事業を展開しています。岐阜県の資料によ

## 「献血」に協力して健康管理を

りますと、ここ数年は県内自給を達成することができていますが、10～20歳代の「献血」者数が少子化の影響もあり顕著に減少する一方、医療技術の進歩や高齢社会の進展により、血液製剤を必要とする患者さんは大幅に増加することが予測されることから、必要な血液製剤を確実に供給するためには、特に若年層の皆様にも「献血」の意義と必要性をご理解いただき、「献血」に参加していただくことが重要ですとされています。

さて、今回のテーマは「『献血』に協力して健康管理を」です。「献血」者には協力いただいた感謝の気持ちとして、肝機能等7項目の生化学検査成績と8項目の血球計数検査成績がほぼ2週間後に血液センターから送られてきます。400ml「献血」であれば男性は年に3回、女性は年に2回できますので、まさに定期的な健康管理に役立つデータとなるわけです。皆様、是非「献血」に協力して健康管理を実践しましょう。